

l	h	h
---	---	---

に
い
ま
し
た
の
そ
の
と
き
は
、
こ
も
だ

おいかけっこやしうぎをしないであ

でも、アメリカにいかないからねば

な
り
な
く
な
り
ま
し
た
の
そ
の
と
き
、

ほくはかなしくなりました。おなか

た	め	ら	、	と	も	だ	ち	か	い	な	く	な	っ	て	し
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

ま
う
か
ら
ず
の
さ
い
づ
の
と
う
え
ん

日ハクラスのみならず、いづくれ

ま
し
た
の
ぼ
く
は
と
て
も
う
れ
し
い
な

も	ち	に	な	り	ま	し	た	の	ア	×	リ	カ	に	リ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

っ	た	ら	へ	と	も	た	ち	な	つ	く	ろ	う	と	ぶ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

もいしました。

アメリカについて、ぼくはすぐ

学校にいかなければいけなくなり

ました。学校のあひる休みのい

ん日本人のせん生がきて、日本人

をしよ、うかいしてくれました。

つぎの日は、日本人がどこであ

そんでいるかわかりませんでした。

が、と一人見つけたとおもったら

二ねんせいから五ねんせいしかあ

るべないとそこでした。一ねん生

のぼくはあそびませんでした。と

てもかたしかつたです。

それが、三か月たつて二ねん

生になりました。そのとき、ぼく

は、すぐくわくくわくしました。なぜ

な、ら、と、も、だ、ち、と、い、つ、し、よ、に、あ、そ、
べ、る、か、ら、で、す、。日、本、人、か、あ、そ、ん、で、
い、る、と、こ、ろ、に、い、く、と、い、っ、し、よ、に、
ド、ッ、ジ、ボ、ー、ル、を、す、る、こ、と、が、で、き、ま、
し、た、。そ、し、て、な、か、の、お、い、と、も、だ、
ち、が、で、き、ま、し、た、。い、ま、は、ほ、か、の、
日、本、人、の、と、も、だ、ち、と、も、た、の、し、く、
あ、そ、べ、て、い、る、か、ら、ぼ、く、は、す、ご、く、
た、の、し、い、で、す、。

りよ ころの思ひ出

二の三 青木 りお

わたしは、夏休みにデイズニ

クルーズにのりました。中でも一

はん楽しかったのは、ウォーター

スライダーです。

ふねのおく上にプールがあて

ふねをぐるりと一しゅうするくら

い大きなスライダーがありました。

ところどころまっくらゾーンがあ

ります。さいしょに見たときスピ

ードがはやそうで、こんなすべり

だいこわいにきまってる、と思っ

てすべりたくなかったです。お父

さんとならぶことになつて、じゅ

んばんが回ってきてほしくないな

と、どきどきしました。ついにじ
ゃんぱんが回ってきました。する
と、あれ、楽しい。気もちがかわ
りました。ふわ。としておこち
て、水しぶきがかかって気もちい
いのです。とうめいなトンネルだ
から、青い空と青い海が見えてけ
しきがきれいでした。そしてすべ

りおわると、早くもう一回やりた
いと思いました。
クルーズの中にはたくさん楽し
いことがあったけれど、ウォー
ー スライダーは毎日十回くらい
りました。なんでもやる前からい
やがらずに、やってみたら楽し
ことが分かりました。また、い

いろいろなことに
チャレンジしてみ
た
います。

作文

三年四組

原

有沙

「ダメだ」。

ぼくは、あきらめた。作文を書くことをきめるのに何年も何年もかかるみたい。ぼくは作文を書くきがなくなった感じがした。ぼくとこの白い紙。自分たちのことをいって見つめている。

「橋草さん」。

なんかあたたかい声が聞こえた。ふりむくと、

広田先生が立っていた。

「作文の紙に何も書いていないであげど、ど
うかしめましたか」。

ぼくはさげんでクラスからにげこ、廊まで走
って、もう「作文」というものを書かなくて
いいと言われたい。ぼくは「下をむいてこた
えた」。

「何を書くかせんせんわかりません」。

先生はニゴリとほほえんで言った。

「じゃあ先生が手つだってあげるわね」。

ぼくは先生の顔からふりむいて思った。なん
ではずかしいことを言ってくれんた。
「いやあまず、心にのこった、短いお話しを
おぼえているかな。」
ぼくはふりむいたまま、
「お母さんというしよに買い物に行つたとき。
としずかにこたえたしゅんかん、
「キーンコリンカーン、キーンコリン
カーンコーン。」
と学校のベルが鳴つた。

先生はすつと立ちあがった。
「小山さん、お願いします。」
小山さんこの白ウサギの赤いジャンパー
ートかいすからはなれた。小山さんはクラス
全買立つているかかくにんした。そしてさい
後に、
「きりつ、れい。」
「ありがとうございます。」
となりにすわつていた西村まさくんが大声で
さけんだから先生におこられた。ぼくは作文

を終わらせたふりをして、作文をつくえの中
にしまった。

「たかしくん。」

「ぼくはびくくりしてうしろを見た。川先サキ
ちゃんか立っていた。」

「サ、サキちゃん、きゅうにどうしたの。何
かぼくに用があるの。」

「ぼくはふるえた。か言った。」

「あ、わたし。わたしはタカシくんの作文
の話、何にしたか聞きたくて。」

「ぼくはまたあのいやな思い加心の中におきあ
がった。」

「え、ボ、ボクはお母さんといっしょにお
買い物に行ったら話を書いたんだけど。」

「ぼくははずかしくなった。だって一年生、ぼ
い話を書くんだもん。」

「へえ。わたしは家族五人で遊園地に行った
ことな書いたんだ。」

「へえ。」

「ぼくはうなずいた。」

「楽しそうだねー。
「そうなんだよ。チケツトのあいさんがすっ
「といたずら子どもにキヤイキヤいさけんで
「いたよー。
「サキちゃんはおドアまでいっしょに話してくれ
「こ、そのドアを開こうと思っ
「たし、んかん、
「橋草くんし。
「ぼくの心かドキツと鳴った。
「作文、何も書いていないから、今終わらせ
「こちようだいし。

「さきちゃんはおクスツとあらいなからドアを出
「ていった。ぼくはいすにすわって書きはじめ
「た。ぼくは思いつくままに次から次のページ
「へと字を走らせた。
「できたし。
「とさけんだとき、ちようどベルが鳴った。お
「んなが教室に入ってきた。聞こう思った。
「作文、てそんなにむずかしくないな。今度の
「作文は何にしようと思ひなから、きりつこれ
「いいなした。

楽しくて悲しかった夏休み

四年三組 平田 寅

出会いがあれば別れもある。この夏、ぼくは最高に楽しい思い出と悲しい思い出が出来た。わすれない様に夏休みの宿題のこの作文に書きたいと思う。

ぼくには大迫という友達がいる。ぼく達は二年生からずっと同じクラスだった。二年生と三年生は同じクラスだったけれど、コロナのせいでじゅう業は全てオンラインだった。だ

から実さいに大迫に会ったことはなかった。オンラインじゅう業だとなかなか発言しづらかったけれど、大迫はいつも元気に発言していた。会った事は一度もなかったが、大迫が元気で面白くてクラスをまとめてくれるリーダー的そんな子であることは分かっていた。でもコロナのせいで実さいに会うのはむずかしかったし、一しょに遊ぶことは想ろうでしなかつた。

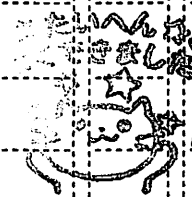
四年生になると学校は対面じゅう業に変わった。

た。四年生になつて、また大迫と同じクラスになつた。実さいに会つた大迫は、本当に元気でアクテ、ブですぐに友達になつた。ぼくたちは休み時間になるとツースクエアをやつたり、好きなゲームの話をしたり、悪い言葉をふざけて言つたりして、沢山笑つた。ぼくは大迫と一しょにしていると元氣になれた。ぼくは大迫が大好きだつた。大きらいだつた学校も大迫のおかげで行くのが楽しみになつた。しかし、ある日ぼくは、大迫が夏期集中学

習後、日本へ引つこしてしまふ事を知つた。ぼくは、そんなのイヤだ！お別れしたくない！と思つた。ぼくのお母さんがすぐに大迫のお母さんにれんらくをして、プレイデートの約束をしてくれた。ぼくと大迫は大声で、「ヤッ、タゾー！イエス！」と、よろこんだ。プレイデートはもちろんすごく楽しかった。でも帰りの時間が近づいてくると、別れるのが悲しくなつた。大迫が学校に来た最後の日は、すごくさみし

かっただけれど、同じクラスの宮本が、
「今日は大迫が学校に来る最後の日だ。みんな
な楽しめ！」
と言った。ぼくも「その通りだ」と思った。
みんなでツイスクエアをやって、大迫に勝た
せて気持ち良く送り出した。
いよいよ最後のプレイデートの日、クラス
の友達か何人も集まって最後の大あばれ、大
さわぎをした。ぼくたちは日かくれるまで帰
れなかった。もう会えなくなるなんていわだ
ったから。だけどいやでもその日はやってく
るのだという事を知った。
大迫が飛行機で日本にたつ日の朝、ぼくは
大迫にボイスメッセージを送った。「日本で
も元気でな」と。大迫からは「アメリカで元
気でな」と返ってきた。ぼくはすごく切なく
なった。も「とーしょに遊んだかった。お母
さんが残念そうに」
「コロナさえなければも「と遊べたのにね」
と言った。ぼくはコロナかにくくて、くやし

くなくなった。でもそれはもうどうする事もできない。だから、ぼくは次に大迫に会えた時に何をして遊ぼうか、どんな話をして笑おうか考える事にする。そして、ワクワクしてきた。大迫とたくさん遊んで楽しかった思い出も大迫が引っこしてしまっただけ、悲しさも、コロナにいくたらしい気持ちも、次に大迫に会える楽しさ、全部まとめてぼくの今年の思い出だ。



クロールのプロ

五年一組

増田

哲治

「バシヤン、バシヤン」

ぼくは家族の中で泳ぐのが一番下手だ。み

んなみたいに、もつと上手く泳げるようにな

りたいと思っっていた。前に日本に行つた時は、

プール教室に通つたこともあつたが、完ぺき

にできたのは水中ジャンプくらい。頑張つて

も前に速く進まない。プールで遊ぶのは大好

きだが、レッスンでちゃんと習うのは苦手だ。

た。だからお母さんがぼくを夏の水泳キャン

プに入れたと聞いた時、正直がっかりした。

トライアウトの日は、朝からとてもきん張

していた。でも、水に入つてみると、思つた

ほど悪くなく、泳ぎ終ると何か気持ち良か

た。どのレベルでもいいから入れるといいな

とすでに思っていた。真ん中辺りのクラスに

入れることになり、グループレッスンが始ま

た。行つてみると、何と三人も友達がいた。

レッスン前に話していると、気持ち落ち着

いてきた。

でも、スンはそれほど良くなかった。人数が多くて泳ぎにくい上に、コーチに直接教えてもらえないからだ。つかれるばかりで上手くなつた気がしない。家に帰って話したら、お母さんは早速個人レッスンに入れてくれた。きん張がまた高まつてきたけれど、お母さんが来ると聞いて、たいふ収まつた。

個人レッスンは思つた以上に辛かった。辛すぎて何回も止まつてはせき込み、水をたく

さん飲大で苦しかった。それに、コーチがぼくを下手すぎでどうしようもないと思つてい

るのではないかと心配もしていた。

でも、いい所もあった。一つ目は苦しくて涙が出ても最後までがんばれたことだった。

二つ目は、ほくがやらないといけな

ことを

コーチが、一時間の途中で全部教えてくれたこと

だった。習いたてでまだひきないことばかり

だったけれど、次は何に気を付ければいいのかよくわかつた。お母さんも、気を付けるポイント

シトをコーチに聞いていた。
 次の週、ほくとお母さんは近所のプールに
 行くことにした。お母さんはほくがコーチの
 言ったことができているかたくさん見てくれ
 た。数日後、また同じことをしたら、フロ
 ルが前より楽に、速くなっていた。どう泳が
 ばいい感じになるのか、やつとあがった。そ
 のおかげで、水泳の練習が前よりずつと楽し
 くなつた。一番うれしかったのは泳ぐのが上
 手い小春お姉ちゃんにほめられたことだ。
 「てっちゃんすごいね、フロールはいい感じ
 だね。」
 それを聞いた後、つもと頑張るぞ、と
 心の中で言った。
 お母さんが入ってくれたキャンプがきつが
 けで、泳ぐことと頑張ることの気持ち良さを
 感じられたのは、この夏の忘れられない思い
 出になつた。最初は少しいやだなと思つても、
 まがばやつてみようと思う。ほくはフロール
 のプロになりたい。

いちごおじさんの愛
六年二組 押元 ひなた
「ストロベリームーン」で何だろう。
私は日本人ですが、アメリカに住んでいるの
で、現地の人達と一緒に学校に通っています。
その学校は英語で授業を行います。私はまだ
一年くらいしかアメリカに住んでいないので、
英語はあまりよく分かりません。だから、み
んなが授業を受けている間、一時間程度抜け
出し、英語を教えてもらっています。

そんなよく分からない授業で、「ストロベ
リームーン」について学ぶ機会がありました。
いつも通りよく分かりませんでした。気が
なつたので家で調べてみました。そこで分か
ったことは、「ストロベリームーン」は、六月の
満月で、一年の間で一番大きい月という事で
す。いちごの収穫時期と、満月の時期が重
なるため、そのように呼ばれるようになった
そうです。私は、まさに今がいちごが最もお
いしい時期と知り、家族でサンタクルーズへ

いちごがリヘ行きました。

そこで、いちごの育て方の違いや甘いいちごの選び方など、色々を知ることができました。私が日本で食べたことのあるいちごの育て方は、おじさん達がビニールハウスで温度調節をしながら、大切に育てていました。一方、私が行ったアメリカのいちご農園では、海の冷たい風により夜は寒く、日が昇ると暖かくなるという温度差を利用して、いちごのとう度を高めながら育てられていることを知

りました。日本のいちご農園とアメリカのいちご農園を比べると、アメリカでは自然の温度差を利用して、とう度の高いいちごを育てていることにおどろきました。

アメリカのスーパーで買ったいちごは、当たり前があって、甘い物が少なかった事から、日本のいちごの方が大事に育てられているので、日本のいちごの方がおいしいと予想しました。さてさて、どうなるか。アメリカのいちご農園のおじさんはこう言いました。

「おいしいいちごを選ぶためのポイントは二つあるよ。いちごが真っ赤に色付いているもの。その二。へたが上に向いているもの。そういうものを、収かくするといいんだよ。私はおじさんが言っていた二つのポイントをおさえながら、いちごを収かくすることを楽しめました。とう度の高いいちごを探すのには時間が必要でしたが、ラッキーなことにはハートの形をしたおもしろいいちごに出会った。うことができたのです。ちょっぴり幸せな気分になりました。」

さらに、いちごがりの後、いちごを食べてみて分かったことは、とう度の高いいちごの条件として三つの特長があるということです。一つ目は、いちごの表面にハリツヤがあるものです。二つ目は、へたが上に向いているものです。三つ目は、大きいいちごであるということです。私は、いちご農園でいちごを育てているおじさんから、とう度の高いいちごの選び方を

食べたことでうれしく「これはおもしろい」と心の中でひそかに感じました。そして、アメリカにも日本に負けないくらいおいしいちごがあることを知ることができました。私はまた、アメリカの甘くておいしいいちごを食べたいと思いました。だから、来年もまた「ストロベリームーン」の時期に、おじさん達のいちご農園に行きたいと思っています。